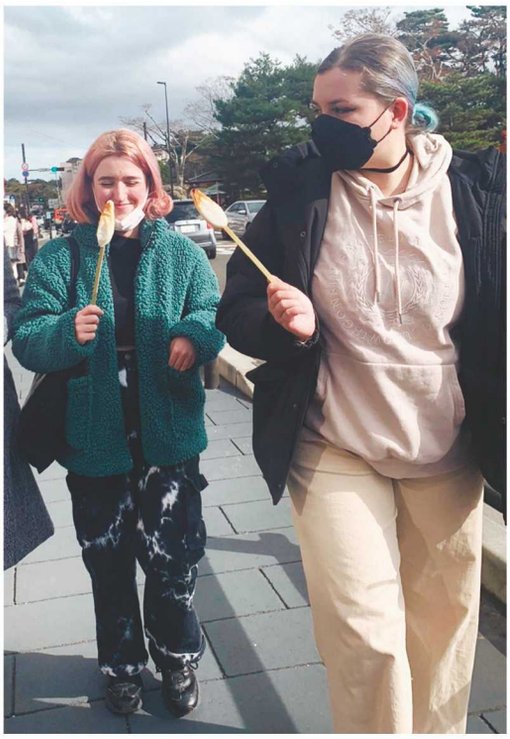
（公財）仙台観光国際協会（SenTIA）　多文化共生情報誌

SENDAI Lifestyle

Vol.6
2023.3



特集　地域における難民・避難民

インタビュー　仙台での経験を未来につなぐ
ウクライナ出身者による座談会

多文化SENDAI　RAN日本語教室

外国につながる子どもたち　仙台市立幸町小学校（その2）

コラム　仙台ではたらく / 子育て in せんだい / 留学生サポートの現場から

CIR通信　国際理解プログラム / 初めまして仙台！

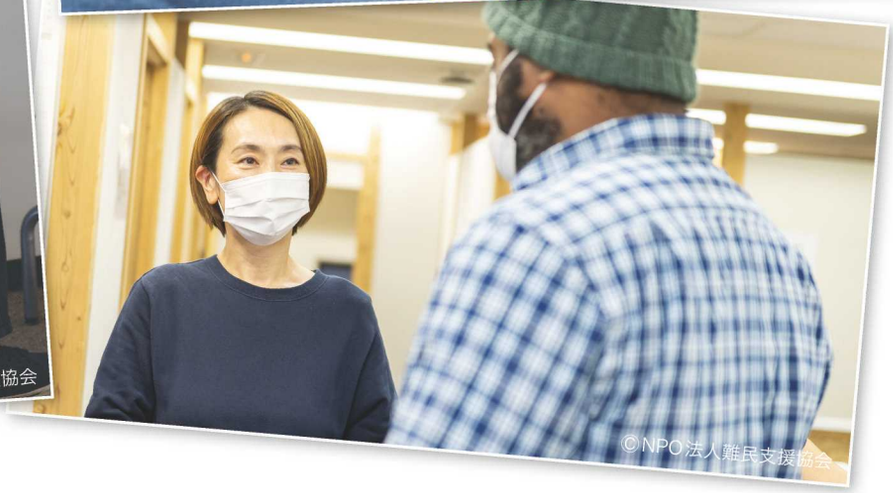
SenTIA
Sendai Tourism,Convention and International Association

（公財）仙台観光国際協会（SenTIA（センティア））国際化事業部は、言葉や習慣の異なる外国人住民や外国にルーツを持つ人たちと暮らす「多文化共生」のまちづくりのため、さまざまな事業を行っています。

WEBサイト　Twitter　Facebook

©NPO法人難民支援協会

©NPO法人難民支援協会


©NPO法人難民支援協会

特集 地域における難民・避難民

2022年2月に始まったロシアによる軍事侵攻により、多くのウクライナ人が国外に避難しました。日本もウクライナ避難民の積極的な受け入れを行い、人々が関心を寄せていますが、それ以前から、日本には他の国や地域から逃れて来た難民の方々が暮らしています。今回は、地域における難民・避難民の受け入れについて考えます。

日本の難民認定の状況

2022年、紛争や迫害により、故郷を追われ難民となった人は著しく増加し、ついに1億人を突破しました。中でも、ウクライナ情勢の悪化により、ウクライナ避難民が圧倒的多数となっています。(図1) 母国から逃れ、2021年に日本で難民認定申請をした人は2千413人、認定されたのは74人でした。認定率は1%未満と、諸外国に比べ非常に低い水準に留まっています。(図2)

日本の難民受け入れの現状について、様々な国や地域から逃れて来た難民の支援を長年行ってきた、特定非営利活動法人難民支援協会(以下「JAR」)の新島彩子さんと鶴木由美子さんにお話を伺いました。

難民支援の現状

新島さん 毎年60~70か国、600~700人の支援を行っています。例年6割がアフリカの方です。アジアだとアフガニスタンの方からかなりの相談を受けています。コロナ禍では、外国人の入国制限により、新規で入国した方の相談が少なかったのですが、2022年10月からほぼコロナ前に戻り、新規の相談が増えています。日本に辿り着いても言葉もわからず、右も左もわからない状態です。200~300ドルくらいの所持金しかないことも多く、お金が尽きてしまい泊まる所も食べる物も無いなかでJARにやってきます。

ウクライナ避難民については、政府はこれまでになく迅速に受入を表明しました。それもあってか福祉団体や個人、自治体などからJARにたくさんのウクライナ避難民への支援の申し出をいただきました。20年以上難民支援を行っていますが、こんなに申し出を受けたことはありません。政府の対応にも大きな差があり、日本に身寄りのない方については入国日から一時滞在先が用意され、一時金をもらい退所して、自治体などが用意した住居に転居するなどできますが、自力でJARの事務所に辿り着いた難民には入国日から何の支援もありません。自力で切り開かなければならず、私たちのような支援団体や他の支援に偶然つながるかどうか、最初に大きな分かれ道があるのです。私たちは政策提言の中で、少なくともウ

クライナ避難民と同水準の支援を求めています。

このように公的な支援の手厚さも違えば、付与される在留資格も異なります。難民申請時に在留資格を失っている人や複数回難民申請をしている人は、在留カードもない、就労もできない、社会保障も利用できない上に、収容される可能性もあります。難民認定の結果が出るまでに平均で4年5か月かかり、長期化すると10年以上も待ち続けてやっと難民認定される方もいます。長期で見たときに「孤立させない」ということが、社会にとってもその方にとっても重要です。地域に来た最初の段階で何か孤立させないような働きかけができればよいと思います。

日本のメディアを見ていると、ウクライナ以外の様々な国で実際にどんなことが起きているか、なかなか報道されません。もし実際に難民の方と会うことがあったら、その国でどんなことが起きているかということを知っていただきたいし、難民である前に一人の人間であるので、やはり人対人として接していただくことが、逃れて来た方にとっても救いになるのではないかと思います。

難民の定住支援

鶴木さん　私は、難民の方が多く住む地域の病院やソーシャルワーカー、子ども支援の方、地域住民の方など、難民を支援する可能性のある方々と日々勉強会を重ねてきました。難民の方たちがどのような状況で、どのような制度からもれているから、何ができないのか、を伝えてきました。例えば「保険証がないから医療費が100％以上になり、支払えなくて困っている」などです。一つ一つの背景を知らないと、単に医療費を踏み倒そうとしている人と思われてしまうこともあります。地域で難民に関わる問題が起きた場合は、個人に理由があるのではなく、社会的な背景や制度にあるということを何度も説明します。説明すると多くの方が理解を示してくれるようになります。例えば、医療費がなかなか一括で払えなかった理由は、私たちが保険で30％払うところを100％以上の請求になってしまっていたからだとか、働く気が無い人たちなのではなく、そもそも就労許可がなく働けないのだと知るなど、一つ一つの誤解の背景を知っているだけで、受け入れる気持ち、共に生きていこうという気持ちが醸成されます。難民が受ける誤解の背景や理由を知る人を地域で増やしていくことが、難民が地域社会の一員として受け入れられるという意味ですごく大切だと思います。

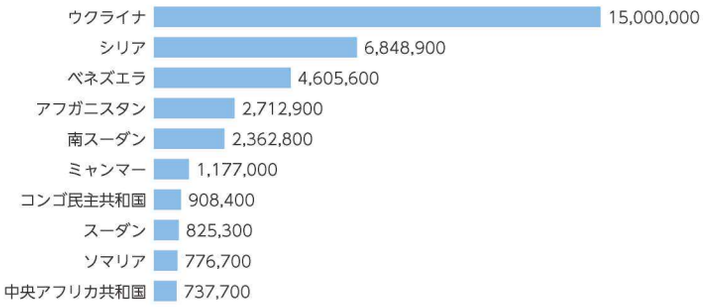
その他、医療水準の違い、文化の違いなど、ほとんどのトラブルは「知らない」ということで起きています。もちろん知ったところでお互いに譲れないこともあるので、全てが解決するわけではないですが、解決しなかったとしても、気持ちの上でお互いの納得感が生まれます。

「知ること」とあわせて大切なことは、「難民」という名前の人はいないと理解することです。背景に「難民」としてのストーリーがあるだけで、一人一人それぞれの名前と人生があります。お子さんが野球部に入った難民のお母さんが、野球部の他のお母さんから「次、試合あるから一緒に見に行こうよ」と声を掛けられて本当に嬉しかったと言っていました。ちょっとした声掛けや「私はあなたを知ろうとしていますよ」という態度をぜひ示してみていただきたいです。

地域社会の一員として

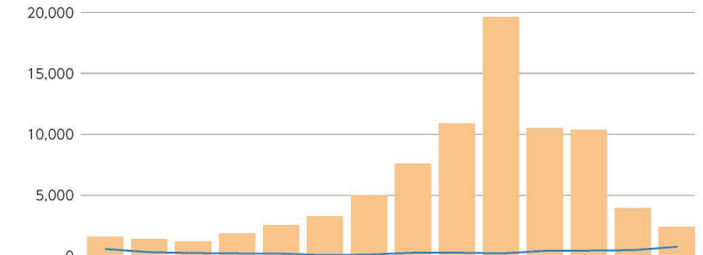
私たちの地域に住む外国人の中には、難民としての困難を抱えた方たちも一定数存在します。ウクライナ危機を契機に、社会全体で難民にかかわる制度を見直していくとともに、私たちには、「背景を知ること」や「人と人として接すること」が、同じ地域社会で共に生きていく一員として求められています。

図1　国外へ逃れた難民の出身国上位10か国（推計）



（資料）国連UNHCRウェブサイト（ウクライナは2022年11月、その他の国は2021年12月時点）

図2　難民認定申請数と難民認定者数の推移



	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
難民認定申請数	1,599	1,388	1,202	1,867	2,545	3,260	5,000	7,586	10,901	19,629	10,493	10,375	3,936	2,413
難民認定者数	57	30	39	21	18	6	11	27	28	20	42	44	47	74

（資料）出入国在留管理庁統計

仙台市のウクライナ避難民支援

仙台市では、生活支援金や医療費助成金等の支援を行っています。また、仙台多文化共生センターでは、ウクライナ避難民の受け入れについてのお申し出や、生活相談を受け付けています。受け入れを考えている方や困りごとを抱えているウクライナ避難民をご存じの方は、仙台多文化共生センターまでご連絡ください。

SenTIA
ウクライナ避難民の
受け入れ・生活相談情報

インタビュー

仙台での経験を未来につなぐ

ウクライナ出身者による座談会

ロシアによる軍事侵攻により、ウクライナの多くの人々が国外への避難を余儀なくされました。仙台でも20名を超える避難民が生活しています。今回は、仙台で日本文学や日本語の研究を続けるために避難してきた3名の方に、仙台での生活や研究への想いについて話を聞きました。

―日本語を学ぼうと思ったきっかけを教えてください。

マリヤ　歌を聞いたり、アニメを見て、美しい言語だと思いました。言語の教育に興味がありましたが、日本語は英語より珍しくて面白いと思い、大学に入ってから勉強を始めました。

ダリナ　高校生のときに、吉本ばななさんの本を読んで日本語に興味を持ち、大学に入って日本語を専攻しました。

エヴァ　高校生のとき、日本のモバイルゲームをよくやっていました。英語の翻訳がなかったため、「私が翻訳したい！」と思いました。それはきっかけに過ぎず、日本語は美しい言語だと思い、その後文学や言語学にも興味を持ち勉強し始めました。

―3人はドニプロ国立大学で教師と学生でした。仙台で再会したのは偶然ですか。

マリヤ　そうです、まったくの偶然です。大学の担当者から、ドニプロ出身の人が来仙したが知っているかと聞かれ、写真を見て自分の教え子だとわかり、驚きましたが、嬉しかったです。

ダリナ　仙台に行くことが決まった後、マリヤ先生のSNSで先生が仙台にいることを知り、驚きました。本当に嬉しかったですし、仙台に知っている人がいて心強いです。ドニプロと仙台は街の雰囲気が良く似ています。それに先生もいるので、まるで実家にいるように感じます。

―仙台へ来ることになった理由を教えてください。

マリヤ　避難民として東北大学が受け入れてくれました。安全な場所で日本文学の研究を続けるためです。また、日本という「東京」や「京都」ばかりですが、東北の文学について講義などもしていましたので、「東北地方」や「仙台」についてもっと知りたい気持ちもありました。

ダリナ　私たちは卒業していて学生ではなかったですが、研究したい気持ちがあったので、東北学院大学で受け入れてくれて本当に嬉しかったです。機会があれば、仙台でボランティア活動もぜひやりたいです。でも、今大学院進学の準備でとても忙しいです。大学院の研究テーマなどについて相談しています。

―研究生のお二人に聞きたいのですが、日本人の友だちはできましたか。日本人との交流はできていますか。

エヴァ　大学の友だちがたくさんできました。カラオケや観光地に毎週誘ってくれます。どの誘いを選んだら良いかと困るくらいです。最初は、大学の友だちが言っている言葉やLINEで送られてくる文章が全然わかりませんでした。「やばい」などは先生には教わらなかった言葉ですが、今ではわかるようになりました。

ダリナ　たくさんの若者言葉があり、最初は戸惑いました。日本語を学ぶサークルにも週2回参加しています。日本語でたくさんコミュニケーションを取って、だいぶ日本語に慣れてきました。

―仙台での生活の感想を教えてください。

エヴァ　仙台はあまり寒くありません。ウクライナでは、夏が終わるとすぐ冬が来る感じです。秋物や春物の服を楽しめるのが良いです。服は高いので買えませんが、企業からの支援品があるので助かっています。

ダリナ　現金の使い方に驚きました。ウクライナでは現金を使うことはほとんどありません。またポーランドやイギリスに避難したときも、いつもクレジットカードを使っていました。仙台の地下鉄やバスでは、クレジットカードが使えなくて驚きました。

マリヤ　銀行の通帳にも驚きました。日本に来るまで「通帳」というものを見たことがありませんでした。ウクライナは電子の国ですから、すべてアプリです。最初はすべて電子化するのに批判もありましたが、戦争が始まってから、みんな電子化されていて良かったと思いました。一つのアプリにすべての書類、パスポート、運転免許証、ワクチン接種や納税記録などの情報が入っています。お年寄りもみんなアプリを使いこなせるようになりました。戦争で多くの人が家や書類を失いましたが、電子書類があったので助かりました。

―仙台での研究や日本語の学習を将来どのように生かしたいか、目標などがあったら教えてください。

ダリナ　大学院に進学すること、研究を続けることです。でも、その先はまったく想像することができません。大きな夢は、ウクライナができるだけ早く平和になることです。

エヴァ　大学院に進学し、その後は教師になりたいです。教師になることを目標に、大学院で頑張りたいです。

マリヤ　将来のことを話すのは、とても苦しいです。目標はありますが、先が見えません。博士論文を作成したいです。大学院入試を考えています。研究を続けていきたいです。その後、ウクライナに帰国して、自分が得た経験・知識を学生たちに伝えたいと思います。

マリヤ・クラヴェツ さん

ウクライナ東部・ドニプロ国立大学大学院で日本文学と日本語を専攻。講師として学生に日本語を教える。ロシアの軍事侵攻後、ウクライナ人研究者第1号として東北大学が受け入れ、大学院文学研究科の客員研究員として日本文学の研究を続ける。仙台の好きなところは、美術館や彫刻が多く、クリエイティブなところ。

ダリナ・グヌトヴァ さん

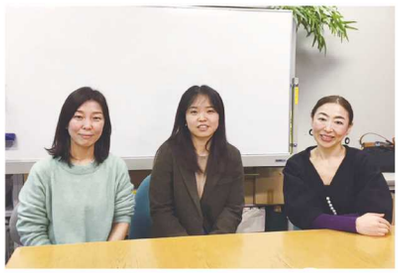
ドニプロ国立大学で日本文学と日本語を専攻。卒業後、現地で日本語を教える。大学では、マリヤさんから日本語の指導を受けた。ロシアの軍事侵攻後、国外へ避難。東北学院大学の研究生として受け入れが決まり来日。大学院への進学を目指し奮闘中。彼岸花が咲いている時期の七北田川友愛緑地がお気に入り。好きな食べ物は抹茶スイーツ。

エヴァ・リアソタ さん

ドニプロ国立大学で日本文学と日本語を専攻。卒業後、現地で就職。マリヤさんの教え子。ダリナさんとは高校時代からの友人同士で、ロシアの軍事侵攻後ともに国外へ避難し、東北学院大学の研究生として来日。将来教師になることを目標に勉学に励む。仙台でお気に入りの場所は、荒浜の海岸。好きな食べ物はおにぎり。

仙台で活動する外国人コミュニティや
多文化共生・国際交流団体を紹介します

RAN日本語教室



左から水曜日担当の佐々木さん、
代表の李さん、土曜日担当の佐藤さん。

RAN日本語教室は、コロナ禍の2019年に活動をスタートしました。代表の李さんが友人から「日本語教師養成講座を修了したら、ぜひ日本語を教えてほしい」と言われたことがきっかけでした。

毎週水曜と土曜は、仙台多文化共生センター研修室で対面学習、金曜日の夜はオンライン学習を開催しています。学習者は、中国、台湾、マレーシア出身などアジア圏の方が多く、学生から主婦や社会人まで幅広い層に教えています。

水曜日担当の佐々木さんは、教えるうちに「学習者は日本に住んでいても日本語を使う機会が少ないので、アウトプットの機会を増やせるように手助けできる場にしたい」と感じてきたと言います。土曜日担当の佐藤さんは、「日本語を覚えることは難しいけれど、難しさを感じさせないように工夫して教えることがやりがいにもなっている」と話してくれました。

李さんは、「自分も日本語を話せない時期があり、学習者の気持ちがよくわかる。ルーツである中国語と韓国語も生かしながら、今後は日ごろクラス別で会えない学習者同士の交流会や、お花見や芋煮会などの体験型学習もしてみたい」と話してくれました。

RAN日本語教室

“RAN”は、メンバー3人の頭文字と、“RAN（ラン）＝RUN（走る）”のように、走っていこう、頑張ろう、という意味が込められている。毎週水・土曜日は10時～11時半に仙台多文化共生センター研修室で対面学習を実施。金曜日は20時～21時半にオンライン学習を実施している。無料。受講希望の方は、ainilixiang524@gmail.comまで。

外国につながる子どもたち

多様な子どもたちが学ぶ学校の様子を
現場の先生に伝えてもらいます

幸町小学校 日本語教室（その2）

低学年の児童が、海外から幸町小学校に編入学したときのことです。

少しずつ安心して日本での学校生活を送れるよう、日本語教室では、「サバイバル日本語」を中心に指導しました。特に、挨拶、自分の名前を読む・書く、学校で使う物の名前、健康や安全に関わる言葉など、学校生活で必要な言葉についてです。翻訳機やジェスチャー、絵カードを使い、楽しみながら日本語を覚えられる環境づくりを心がけました。

来日して3か月が経つと、友達や担任との関わりの中で、「すごいね」「かわいい」と言ったり、「これ何？」と尋ねたりして、日本語での会話が増えました。また、平仮名を読めるようになり、身近な日本語に興味を持つようになりました。児童が日々成長している姿を見ると、こちらもうれしくなります。

これからも、児童にとって安心で笑顔があふれる学校生活につながるよう、一人一人に温かく支援していきたいと思います。

反対言葉カードを使って言葉を覚えています。

日本語を母語としない小・中学生のためのオンライン教室

毎年初夏、秋、春に、SenTIAが宮城教育大学と共催で、日本語を母語としない子どものための教室を開催しています。パソコンやタブレット、スマートフォンを使って参加できます。学生ボランティアが日本語や教科の学習をサポートします。

髙橋（たかはし）　美紀（みき）　教諭

仙台市立幸町小学校勤務10年目、日本語教室の指導は4年目。

趣味は登山、手芸。好きなことは、お菓子作り。

コラム

仙台に暮らす多文化な皆さんのライフスタイルを紹介します

仙台ではたらく

ユニ　ヌルル　アジザさん／インドネシア出身。東北大学大学院在学中からariTV株式会社（青葉区）でアルバイトを始め、卒業後正社員に。ネット上でムスリム向け情報を発信する「Japan Halal TV」局長として活動中。

東日本大震災のあった2011年の9月に交換留学生として東北大学に来ました。母国では大きな災害があると皆が助け合います。震災があったからこそ東北に行ってボランティアをしたいと思いました。来日してから被災地に炊き出しに行きました。想像していたよりも町がきれいになっていて驚きました。

ａｒｉＴＶでは2015年から働いています。「世界中に東北の魅力を発信したい」という会社の目標が私のやりたいことと一緒ですので、働いていて楽しいです。今は仙台市のハラル事業と宮城県の観光SNS事業に力を入れています。ムスリムも食べられるハラルメニューの開発やお店などの情報発信をしています。将来的には自分たちでプロデュースしたメニューの輸出もしていきたいと思っています。以前、仙台空港の礼拝室の設置にも関わりました。仙台に住むムスリムや観光客の誘致のためにも、仙台駅に礼拝できる場所ができたら嬉しいです。

個人のSNSでも、ムスリムとしての自分の目線から見た日本の素晴らしいところを発信し続けたいです。

正社員になってからは、取材の申請などの事務作業もしています。

in 子育てせんだい

斉 暁営（サイ ショウエイ）さん／中国遼寧省出身。2006年来日。小学校時代には、学校からの課題で薬草の種や蚕を集めて提出していたことも。SenTIAのコミュニティ通訳サポーターとして活躍中。

母国では、外語大に通い日本語を専攻していました。日系企業に勤めていたこともあり、来日当時は日本語で困ることはなく、誰かに頼ることもあまりありませんでした。ただ、社会との接点がなく、娘を産んだ後も家で一人きりの育児に追われ、あの時は本当に辛く寂しかったのを覚えています。

娘が2歳半の時、近くに児童センターがあることを知り、同じ中国出身のお母さんを紹介してもらいました。それからはママ友も増え、だんだんと人脈が広がっていきました。日本での子育ては全てが初めての経験です。日本の学校は行事が多く、学校からのお便りもたくさんあります。こうした日本の文化を知らない外国人にとっては、言葉の違いを超えた大変さがあります。

とはいえ、悩んでもしょうがないので良い方向へ考えるようにし、いろいろな人に聞きながら一つ一つ解決してきました。PTAの役員もしましたが、一人ではなくみんなで一緒にやることで、様々な交流や情報交換ができて、とても助かっています。

小さかった一人娘は今年受験生。ケンカをするが、すぐに仲直りする。

留学生サポートの現場から

渡部留美（わたなべるみ）さん／香川県出身。東北大学グローバルラーニングセンター准教授。留学生の受入れ・支援業務、学内の国際交流、国際共修授業などを担当。仙台のグルメを探索中。

東北大学では、主に1・2年生が履修する全学教育において、国際共修授業という留学生と日本人などの国内学生が共に学べるクラスを年間約70科目開講しています。授業内容は、特定の学問分野（教育、キャリア、コミュニケーションなど）だけでなく、アクティブラーニングを取り入れたもの（すずめ踊りや七夕まつりについて学ぶもの、課題解決型授業）からスポーツ（合気道、フットサル）まで、日本語や英語で幅広く提供しています。

学生は自分の興味・関心や言語レベルに合わせて履修します。いずれの授業もディスカッション、グループ活動、グループ発表など協働作業を多く取り入れていますので、言語や文化の壁を超えた交流が行われます。留学生にとっては、日本文化・社会について知識を深めたり、友人を作ることにより、孤独感が軽減されたり、ソーシャルサポートを得ることができます。国際共修授業は、充実した留学生活が送れるようになるための間接的な支援にもなっています。

課題解決型の国際共修授業で店舗訪問する学生

CIR通信 Vol.4 国際理解プログラム／初めまして仙台！

仙台市国際交流員（CIR）がSenTIAで携わっている多文化共生事業について紹介します。

今回はテシアから紹介します！

CIR テシア
カナダ・バンクーバー出身。
来日1年目。
猫とコーヒーが好き。

CIR タイラー
アメリカ・フロリダ出身。
来日5年目。
登山やトレッキングが好き。

※国際交流員（CIR：Coordinator for International Relations）
JETプログラム（政府の外国青年招致事業）で来日し、自治体の国際交流担当部局等で国際交流や多文化共生事業に携わっています。
仙台市には現在、2名のCIRがいます。

2022年8月にカナダから来ました、テシア・ロウです。来仙してまだ数か月ですが、すっかり仙台という魅力的な街の虜になりました。大好きな仙台と、仙台に暮らしている市民の皆様のことをもっと知るために頑張ります。どうぞよろしくお願いします。

今回は「国際理解プログラム」について紹介したいと思います。

この事業は多文化共生社会の担い手を育成し、地域の国際理解を推進するために作られました。内容としては、国際交流プログラムや仙台多文化共生センタープログラムがあります。

その中で、私は国際交流プログラムに講師として何度か参加しました。仙台市内の小・中・高等学校や市民センター、児童館などにCIRの他、外国人住民や留学生が講師として派遣され、母国・出身地の文化や暮らしなどの紹介を通して交流します。

プログラム内容は担当者と打合せを行い、お互いに意見を出し合って決定します。私は主に、母国であるカナダの文化や歴史、多文化共生主義について発表しました。また、母国の紹介以外にも、カナダと日本の文化や生活習慣の違いなどの話も紹介し、「異国の文化」だけではなく、「日本に暮らしている外国人」についても理解してもらえるよう心がけています。

私は発表する側の立場にいるのですが、このプログラムのおかげで文化の違いを理解し、互いに尊重し合い、仲良く暮らすことの大切さに気づきました。これからも国際理解プログラムを通して、多くの方と交流できることを楽しみにしています。

積極的に質問する児童たち。講師のCIRの話に真剣に耳を傾けています。

国際理解プログラムについて、詳細はウェブサイトをご覧ください。
https://int.sentia-sendai.jp/j/activity/international_program.html

SenTIAサポーター（国際化事業部 賛助会員）募集中！

言葉や文化の違いをこえて、誰もが生き生きと暮らせる「多文化共生の地域づくり」に向けて、皆様からの支援をお待ちしています。事業にご賛同いただける方は、どなたでもお申し込みいただけます！

会員の種類／会費（年度ごと）

学　生	／1口　500円	個　人	／1口 1,000円
市民団体	／1口2,000円	法　人	／1口 5,000円

賛助会費は、SenTIAの外国人支援事業に使わせていただきます。

サポーターの方には、ご希望がある場合は協会広報紙を郵送いたします。そのほか、仙台多文化共生センター研修室・ワークショップの優先予約（利用要件を満たす団体のみ）の特典があります。

2022年度 新規登録の市民団体会員のご紹介

●宮城県国際理解教育研究会

申込方法等については、ウェブサイトをご覧ください。
市民団体・法人会員のサポーターも紹介しています。
https://int.sentia-sendai.jp/j/activity/supporter.html

仙台多文化共生センター
をご利用ください TEL 022-224-1919

仙台多文化共生センターでは、仙台に暮らす外国人住民の相談に多言語で対応しています。
地域や学校、公的機関等からの各種相談にも応じています。お気軽にご利用ください。

通訳サポート電話　TEL 022-224-1919

３者間通話ができる電話を使って外国人住民への生活情報の提供と、通訳によるコミュニケーションのお手伝いをします。区役所・市民センター・保育所・学校などで、外国人住民とのコミュニケーションでお困りの際にご利用ください。（商用利用はできません）

対応言語	英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語、タガログ語、タイ語、ポルトガル語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、イタリア語、フランス語、ドイツ語、マレー語、クメール語、ミャンマー語、モンゴル語、シンハラ語、ベンガル語、ヒンディー語、ウクライナ語

外国語による相談対応

外国人住民の日常生活での困りごと、悩みごとに、外国語で対応します。
スタッフが英語・中国語で対応します。その他の言語については「通訳サポート電話」で対応することがあります。
中国語・韓国語・ベトナム語・ネパール語は、相談員がそれぞれ週に１～２回、仙台多文化共生センターで直接相談に応じます。

外国人のための専門相談会

在留資格、法律、仕事で困っていること、行政手続き、税金などについて、専門家に相談できます。
事前申込が必要です。通訳も無料で申し込めます。詳しくはお問い合わせください。

2023年４月以降の予定　時間はすべて1:00 p.m.～4:00 p.m.

※ 開催日が変更になることがあるので、ウェブサイト（右側のQRコード）を確認してください

仙台出入国在留管理局	仙台弁護士会	宮城県行政書士会	宮城労働局	東北税理士会
毎月第４金曜	毎月第２金曜	毎月第１土曜	奇数月の第３木曜	次回予定は ウェブサイトで ご確認ください。

〒980-0856　仙台市青葉区青葉山無番地　仙台国際センター 会議棟１階
毎日 9:00 a.m.～5:00 p.m.（年末年始と月に１～２日程度の休館日を除く）
TEL：022-265-2471
FAX：022-265-2472
E-mail: tabunka@sentia-sendai.jp

仙台多文化共生センターは、仙台市の委託を受け、（公財）仙台観光国際協会（SenTIA）が運営しています。

SENDAI Lifestyle Vol.6
発行：2023年３月　（公財）仙台観光国際協会 国際化事業部
〒980-0811　仙台市青葉区一番町３丁目3-20 東日本不動産仙台一番町ビル６階
TEL：022-268-6260　FAX：022-268-6252　Email：kokusaika@sentia-sendai.jp

SenTIA
Sendai Tourism, Convention and International Association